

P 2 M理論が化学と環境系の大学院講義で注目される

～ 3年目を迎える東京農工大学大学院講義～

社会人専門職大学院学生と修士学生が深い交流が効果を挙げる
次世代リーダーを育成することで産業界の関心が集まる

一般社団法人 国際P 2 M学会
事務局編集

化学産業を取り巻く我国の経営環境は、激変している。原料立地国でのコモディティ生産、新興国の技術キャッチアップ、海外生産シフトなど、企業は「生き残り戦略」を模索して、大規模な海外生産拠点や研究開発領域で「難度の高い実行」に移している。定常組織で活躍してきた専門領域の「伝統的産業リーダー」人材は、横断チームが編成されてもラディカルな打破は難しい。プロジェクト経験者も技術に関心が傾斜しがちで、新しいビジネスモデルを創りだすことは難しい。実行リスクや失敗を防止し、企業発展を推進するには、中長期の「新世代リーダー」の教育と人材育成制度が必要である。P2M プロジェクト・プログラムマネジメントは、現場とミドルから「イノベーションテーマ」を実行できるリーダー人材の段階的育成を目指す。例えば、小規模な技術システムの目標管理から始めて、難度の高いビジネスモデルを含むミッションからソリューションを考案して、海外事業の展開、製品の高度化、研究開発などで「期待成果」を実現できるプログラムマネージャー人材である。東京農工大学大学院で、亀山秀雄教授と小原重信客員教授が担当する化学 P2M プロジェクト・プログラムマネジメントは、将来に向けてその「全体フレームワークを概説し」、詳細学習、資格取得に向けて「動機付ける」ことを目的とする。P2M 方法論は、次の2点で「特色」がある。第1に、複雑な問題解決に、我国が誇る「固有の知的マインドや慣習」が反映されている。例えば、顧客要求の徹底追求の精神、先端技術の消化・工夫、チームワーク協働、ビジネスにおける信頼尊重などが組織の根底にあり馴染みやすい。第2に、グローバル化への適応である。「ものづくり」「仕組みづくり」という我国固有の知見に「システム発想や方法論」を導入し、産業文化の異なる企業連携や外国企業との協働を可能にする。さらに、グローバルなコンセプトである戦略、プログラム、プロジェクトの「コンセプト」を導入して、知識と知見を共有できる点である。受講生は化学と化学工学専攻であるが、「広い視野と高い視点でイノベーションに取り組む」には、他産業や学際知識を学習する方が有効である。したがって、本講義内容は、化学産業や専門知識や事例に特化する方針は採用しないで、技術シーズや知識の事業応用力を高めることを方針としている。